



中・大規模施設  
【最優秀賞】

高千穂乳児保育園



中・大規模施設  
【優秀賞】

宮崎銀行東宮崎支店

平成28年度

宮崎市

だれもが住みよい

まちづくり賞



中・大規模施設  
【奨励賞】

ありかわクリニック



小規模施設  
【奨励賞】

境下自治公民館



小規模施設  
【奨励賞】

下南方自治公民館





# 中・大規模部門

## 高千穂乳児保育園



● 最優秀賞 ●



所在地：宮崎市高千穂通2丁目  
所有者：社会福祉法人宮崎福祉会

主要用途：社会福祉施設（保育園）  
設計者：(有)団一級建築設計事務所

### ○ 講評

保育園でありながら、誰でも利用できる地域交流スペースがあり、地域に開かれたプランとなっている。また、屋上には周辺住民も対象とした避難スペースが設けてあり、スロープによるアプローチを可能としている。1階のピロティ部分には、車いす使用者専用駐車場が設けてあり、雨天時でも濡れることなく建物内に入ることができる。建物内にはエレベーターを設置し、階段の蹴上げの高さを抑えたつくりとするなど、高齢者、障がい者に関わらず、誰もが利用しやすいものとしている。バリアフリーへの配慮は勿論のこと、地域交流への配慮についても積極的な取り組みが高く評価された。



● 優秀賞 ●

## 宮崎銀行東宮崎支店



所在地：宮崎市宮崎駅東1丁目  
所有者：株式会社宮崎銀行

主要用途：金融機関等の施設（銀行）  
設計者：(株)ごとう計画・設計

### ○ 講評

車いす使用者用駐車場が広く2台設けられており、道路から入口付近まで点字誘導ブロックが敷設されている。建物内の案内表示も分かり易く、受付カウンターも車いす使用者用のローカウンターを設置するなど工夫が見られる。多目的トイレには温水付オストメイトやベビィチェアのほか、大人も使用できるベッドが設置されていたり、受付では掲式式筆談ボードがあり代筆対応や手話対応可能であるなど、バリアフリーへの多くの取り組みが高く評価された。

## 宮崎市だれもがすみよいまちづくり賞について

バリアフリーデザインの普及を目的に、障がい者や高齢者等を含めてだれもが利用しやすい、モデルとなるような民間建築物を表彰するために、平成20年度から実施しています。賞の選考にあたっては、高齢者や障がい者、子育て支援、建築士、理学療法士などの団体から、12名の委員で構成された「宮崎市バリアフリー検討会」において行っています。

今年度は、平成26・27年度に「宮崎市福祉のまちづくり条例」の整備基準に適合し、適合証の交付を受けた民間の106施設を対象に、整備基準の異なる「小規模施設部門」と「中・大規模施設部門」に分けて、第一次審査（書類選考）、第二次審査（現地選考）を経て第三次審査において各賞の選出を行いました。

### バリアフリー検討会の様子





## ありかわクリニック

● 奨励賞 ●



所在地：宮崎市大坪町  
所有者：ありかわクリニック

主要用途：医療施設  
設計者：宇治野一級建築設計事務所

### ○講評

風除室には折りたたみ車いすと歩行補助車が用意されており、高齢者に配慮されている。建物内の廊下・通路には手すりが設置され、安心感のあるつくりとなっている。多目的トイレは男女別に設けられ、手洗いスペースは車いす使用者が利用しやすい構造とするなど、バリアフリーへの取り組み意識が評価された。

## 小規模部門

## 境下自治公民館

● 奨励賞 ●



所在地：宮崎市大字島之内  
所有者：境下自治会

主要用途：集会施設（公民館）  
設計者：㈱総合企画設計いわい

### ○講評

道路から建物出入口まではコンクリート舗装されており、車いす使用者の通行がしやすい構造となっている。また出入口付近に手すり付きスロープを設置している。内壁や床の塗装、庭の整備を自治会で実施するなど、住民の手で地域コミュニティの場を作っている。避難所としても利用されており、ソフト面でのバリアフリー化が評価された。

## 下南方自治公民館

● 奨励賞 ●



所在地：宮崎市大字郡司分  
所有者：下南方自治会

主要用途：集会施設（公民館）  
設計者：エン建築設計事務所

### ○講評

小規模の公民館でありながら、任意で車いす使用者用駐車場が設置され、出入口は手すり付きのスロープが設置されている。多目的トイレも十分な床面積が確保されている。防災訓練の実施や自主防災組織表を整備するなど防災体制も整っており、管理者のバリアフリー化に対する熱意が感じられる取り組みが評価された。



# 宮崎市バリアフリー検討会委員 審査を振り返って

## 米村 敦子 議長

(宮崎大学教育学部 教授)

民間建築物のバリアフリー促進を目指す本顕彰事業では、私たち「宮崎市バリアフリー検討会」が審査を担当しています。今回は第8回目、平成26～27年度の対象建物から最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3の各賞を決定しました。

日常生活時のバリアフリーとともに、熊本地震からも再考させられますように、自然災害等における緊急避難時のバリアフリーは緊急の課題だと思います。最優秀賞の施設は、日常時と緊急時避難の双方に対応し、地域に開かれていることも評価されました。優秀賞、奨励賞の施設もバリアフリー化への努力が見いだせます。一方、例年同様に、多目的トイレの小さく使いにくい鍵や、手摺り前に植木鉢等が置かれているなどの問題が今回もみられました。



## 廣志 秀月 委員

(公益社団法人日本オストメイト協会宮崎県支部 相談役)

災害時の避難誘導整備施設に考慮され建物の中でも今年の高千穂乳児保育園は特にハード面のみだけでなくソフト面でも非常に高いと評価されました。

中規模の施設で賞には漏れましたが、オストメイト対応した簡易トイレがある施設もありました。使い勝手をもう少し工夫できればと感じました。オストメイト対応トイレ器具は、オストメイトに配慮した簡易トイレ、汚物流しが開発されています。国土交通省では、オストメイトアンケートから汚物流しが身長差に合わせた上下可動式が使いやすいとしています。

限りある身体機能でもできるだけ自力でできるトイレや、介護する側の軽減を配慮したトイレも開発されています。



## 富山 高 委員

(NPO法人 宮崎市視覚障害者福祉協会 副理事長)

最近、バリアフリーに関心が高まり、建築物や設備をバリアフリー化する所が増えて来たことはありがたいことです。今回、5件の施設を拝見させていただきました。

それぞれの施設で、バリアフリー化に努力をされていることが感じられました。しかし、せっかく取り付けけた手すりの前に椅子や植木鉢が並んでいたり、点字で書かれた表示の位置や高さなどが適当でなく、わかりにくい所もありました。施設の職員のバリアフリーに対する認識が今一つで、健常者の感覚で設置されたのかなと思われます。

今後、バリアフリー化を行う場合には、バリアフリーを必要とする高齢者や障害者の意見を聞いて施工していただくと良いと思います。



## 山元 弘道 委員

(宮崎市肢体不自由児(者)父母の会 会長)

バリアフリー検討会に参加してもう何年??数々の建築物を顕彰し、バリアフリー化の促進を提唱してきましたが、未だ必要とする人の目線でバリアフリー化されている事例が少なく、今昔比較してバリアフリーのあり様はさほど変わっていないように思えます。それは、施主、施工者が「誰のためのバリアフリーなのか、なぜ必要なのか」を解していないからなのか!? 定かではないけど、折角費用を投じるのなら、なぜ設計の段階から当事者の目線で考えないのか…。実にもったいない!

さて私は、北欧のバリアフリーのあり様が好きですが、皆さんは、北欧とアメリカのどちらのバリアフリーがお好きですか? 私がなぜ北欧? 答えは「人の心」が介在しているから!



## 小原 政治 委員

(公益財団法人 宮崎身体障害者福祉協会 事務理事)

私どもの協会の会員は身体に障がいのある人であることから、身体障がい者、車椅子利用者にとってその施設が利用しやすいかどうかの観点に立って審査に臨みました。

今回受賞された施設をはじめ、各施設を実際に見せていただきましたが、各施設とも多目的トイレなど設置し、バリアフリー化に真摯に取り組んでおられる姿勢が感じられてよかったです。

折しも、「障がい者差別解消法」と「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい宮崎県づくり条例」が本年4月に施行されました。

これら法、条例の理念のもと、今後とも、障がい者が地域社会の中でますます暮らしやすい社会になるよう願っています。



## 久保 千乃 委員

(NPO法人 ドロップインセンター 副理事長)

「だれもが住みよいまちづくり」に向けて、こんなにもさまざまな立場からの目が施設の充実に向けられていることに、一緒に活動させていただいている者としてもまた一市民としても喜びを感じています。相手の身になり福祉を考えるとことはとても重要であり大切なことです。

しかし、当事者の目線には超えられない面も多々あります。こういった活動は直にその方々のご意見を伺えるとても貴重な場です。このような有意義な機会をこれからの発信方法も含めさらに有効に、また、ほかの分野でも活用していただきたいと思えます。それがこれからも「だれもが住みよいまちづくり」の広がりにつながると思います。



## 松浦 邦晴 委員

(宮崎市聴覚障害者協会 会長)

審査にあたり、誰もが住みよいまちづくりに障害者・高齢者が利用しやすいように民間建築物の普及に、宮崎市建築指導課の指導で改善されてきた現場を、直接利用された市民の皆様も感心されることでしょうか。

今までは殆どがハード面の策定であったようですので、これからは誰もが合理的配慮を含め一人ひとりに応じたケースバイケースによる、人的支援であるバリアフリー法での改善を進めていただきたいと思います。



## 日高 達郎 委員

(一般社団法人 宮崎県建築士会 研修委員長)

7年目の委員をさせて頂いております。審査に際してバリアフリーに配慮された建物の図面と現場を見て頂きました。審査の結果、最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3が選ばれました。選ばれた建物はハード面のバリアフリーにはもちろん、ソフト面にも配慮され、地域住民にも開かれてた建物でした。その反面、もう少し配慮があればもっと良いとの意見もありました。

建築に携わる設計者施工者がバリアフリーに関してもっと高い意識を持って業務を当る必要があると改めて感じました。



## 石川 定雅 委員

(宮崎市老人クラブ連合会 副会長)

バリアフリーについては、身体障害者や高齢者等に、いかにその施設や建物が安全で利用しやすく造られているかが課題だろうと思いつつ、検討会に初めて参加しました。

駐車場やトイレなどを、利用者のためにどんな配置をしているのか、災害時の安全性や避難路の確保等がどうなっているかなど、種々の観点から説明を受けました。各施設等で、利用する人の安全性や利便性等に、いろいろ工夫が施され、高齢者にとっては、とてもありがたいことでした。

特定の建物や施設だけでなく、各家庭や地域社会の場でも、バリアフリーに対する理解や配慮が大切であるということを感じました。



## 大野 富美子 委員

(NPO法人 宮崎市手をつなぐ育成会 理事)

今回も委員をさせて頂きました。今年度も「だれもが住みよいまちづくり」を目指して、宮崎市内の顕彰建築物の審査が行われました。様々な立場から意見を出しあい、今年度は最優秀賞が選出され嬉しい限りです。

人にやさしい建築物について、「バリアフリー法」に基づき、いろいろの方が利用しやすくするために、各種設備のバリアフリー化の充実を図る必要性を感じています。

ハード面の対応だけでなく、一人ひとりが高齢者や障がいのある人へ進んで手をさしのべる環境づくりなどソフト面の対応も重要なのではと思っています。



## 加藤 友和 委員

(一般社団法人 宮崎県理学療法士会 神経研究部会 部長)

今年度から宮崎市バリアフリー検討会に参加させて頂いております理学療法士の加藤です。検討会では書類上の選考や現地調査に行くことで、建物の特徴など多くのことを知ることができました。選考対象となっている建物は体に障がいがある方や高齢の方も使用しやすいよう工夫されており、それぞれの場所で利用する方への配慮や気遣いを感じることができました。

仕事でも患者様の自宅改修などをお手伝いすることがありますので、患者様やご家族以外の方も使いやすいような提案ができるようこの経験を活かしていければと思います。全ての方が安全に、そして安心して利用できる建物が宮崎に増えるよう、今後も協力していきたいと考えております。



## 永山 昌彦 委員

(NPO法人 障害者自立支援センター YAH'DO みやざき 理事)

最優秀賞の「高千穂乳児保育園」は津波の際に地域住民の皆さん(車いすの人も)も避難できるように屋上まで上れるスロープを設置しています。

地域への貢献を念頭に入れた建築姿勢に感銘しました。ただ近年、顕彰対象となる物件が少なくなっているように思います。障がい者差別解消法が施行され、今まで以上にバリアフリーへの関心が高まってくいでしょうから、市民の皆様の変更取り組みをお願いします。

4年後の東京オリンピック・パラリンピック、10年後の宮崎国体・全国障がい者スポーツ大会が開催に向け、市民が丸になって、誰もが住みやすい宮崎市を作っていきます。



## 宮崎市だれもが住みよいまちづくり賞

主催：宮崎市

事務局：宮崎市都市整備部建築指導課

〒880-8505 宮崎市橘通西1丁目1番1号

TEL: 0985-21-1813 FAX: 0985-21-1815

E-mail: 30sidou@city.miyazaki.miyazaki.jp